

歌と芝居 シニアはつらつ

「若い世代も」
出演者募集

「全国に発信を」意欲

横浜 音楽劇に来春再挑戦

横浜市青葉区で定期的に音楽会を開くシニアの音楽愛好家らが、歌に芝居の要素を取り入れた音楽劇に再び挑戦する。来年4月の公演に向け、今秋から本格的な稽古に入る。指導する音楽家の酒井沃子さんは、「青葉区から全国に発信する音楽イベントに育てたい」と力を込める。

音楽劇は「十三月の童話」。酒井さんと親交のある演出家、加藤直さんが書き下ろしたオリジナル劇で、存在しない「十三月」に出会うために旅に出るというストーリーだ。

酒井さんは昨年8月、15年以上主催するシニアによる音楽会「65歳からのアイトライフ」の出演者らを中

色を入れながらの紹介に、レッスン場は笑いに包まれた。加藤さんは「相手になつたつもりで話していますよ。これが演技の発端なんです」と解説した。

参加者は7月までワークショップを重ね、9月から本格的に演技力や歌唱力を磨く。出演希望者の募集も続ける。

酒井さんは「青葉区は、区ができた時から音楽が盛んな街。アイトライフのように、ここから全国に発信するイベントに育てたい」と、音楽劇の第3弾、第4弾も見据えている。

十三月の童話は来年4月25日、青葉区民文化センターフィリアホールで開かれる。問い合わせは、オフィス・バルーン(045・902・7402)へ。



「このチームでどれだけ楽しめるかが大事」という加藤さん(左)の説明に、参加者は熱心に聞き入った(横浜市青葉区)

心に、初めて音楽劇を手がけた。公演は盛況だったものの、「65歳以上に制限しては次につながらない。若い世代も必要」と実感。今回は年代を広げて出演希望者を公募し、30、90歳代の25人程度が応募した。酒井さんは「配役の面からもいろいろな世代がいると広がりがある」と話す。

先月行われた初めてのワークショップでは、加藤さんのアイデアで、参加者が2人1組となり、相手のことを話す形式で自己紹介した。「90歳の医師です。健康を意識し、歌が一番大事じゃないかと気がましました」「英語が得意で歌が大好きです。でも一番好きなのは自分です」。多少の脚